

## 聖霊による福音宣教の時代

使徒言行録2章1～13節

2022年6月5日

松田 基子 師

今日は教会歴において大切なペンテコステ（聖霊降臨日）です。何故聖霊は弟子たちの群れの中に降って来られたのでしょうか。それは**神様の人類救済のご計画**に、従うものであります。神様は、ご自身の御計画に従って歴史を導いておられます。神様は、ご自身に叛いた人類を、永遠の滅びから救う為に、アブラハムを選び、その子孫イスラエルを選び、ダビデの系譜に、神の御子イエス・キリストを誕生させられました。神の御子イエス様は、父なる神様と同じ思いで、罪を犯し、永遠の滅びに向かっていて人類を愛されました。イエス様はその愛をもって、人類を永遠の滅びに引きずり込んでいく、罪の解決の為に、ご自身を献げられました。罪は、それに相当するもので贖われなければ成りません。

イエス様は、そのために、全人類に勝る、神の子の値を差し出して、罪無き神の御子の肉体に、全人類の罪を引き受けられました。そのためにイエス様は身代わりの十字架に架かられたのでした。神の御子の価は高く、全人類の罪は、イエス様を十字架上で、徹底的に苦しめる事によって償われ贖われました。神様は人類の罪が贖われた結果、人類に罪の赦しを与えるとの証明に、イエス様を十字架の死から3日目に復活させられました。ここに人類に対する永遠の罪の滅びからの救いの道が開かれました。神の御子イエス・キリストによる人類の救いが備えられた事によって、人類救済計画は新しい段階に入りました。

新しいステージでは、神様が備えられた救いを、どの様にして全ての人間に知らせ、人間はどう応答するかが問われる事になりました。全ての人間は、自由意志をもって神様に叛きました。神様は独り子さえも、与えて人類のために罪の滅びからの救いの道を開かれましたが、それはまた、人間を強制するものではありません

でした。人間一人ひとりが、自由意志をもって、自発的に神様が備えて下さった、イエス・キリストによる救いを受け取らなければ成らないのです。人はそこで初めて永遠の救いを頂けるのです。

神様は**全ての人が**、この救いを心から感謝して受け取る事を願われました。その為には、このイエス・キリストによる救いを、**全世界に告げ知らせなければ成りません**。神様はその為にどうなさったのでしょうか。イエス様は霊の体をもって復活されると、人を恐れ、隠れていた弟子たちの所に現れて、ご自身の復活を証明されました。ルカ福音書24章45節を見ますと、

「イエスは聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、言われた。

『次の様に書いてある。メシアは苦しみを受け、3日目に、死者の中から復活する。

また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられると。エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。

高い所からの力に覆われるまでは、都に止まっていなさい』

と、イエス様は弟子たちに命じられました。

イエス様はここではっきりと、弟子たちをご自身の復活の証人、救いの福音の宣教者に任命されたことが分かります。彼らはイエス様の宣教の始めから、十字架、復活まで直接に接して来たのですから、彼らこそ、その任に最も相応しい人達でした。しかし、彼らは自分の身に危険を感じると、イエス様を十字架に置き去りにして、身を隠していた人々です。そんな彼らに、

『十字架に架かられたイエス様こそ、神様が遣わされたメシア、真の救い主です』

と言う事が出来るでしょうか。

イエス様が側におられたなら、勇氣百倍で、堂々と言う事が出来るでしょう。ところが当のイエス様は、復活後40日の間、弟子たちの間に現れて、神の国について教えられると、使徒言行録1章4節で、

「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。

ヨハネは水で洗礼を授けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられるからである」

と言われ、8節で、

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」

と言い残して、父なる神様の御許、天に帰って行ってしまわれたのです。

弟子たちはどうすれば良いのでしょうか。

『12弟子を中心に、120名ばかりの弟子たちは、心を合わせて熱心に祈った』

と記されています。それはどう言う事だったのだろうかと思えます。彼らは幼い時からシナゴグと呼ばれる会堂で教育を受けてきました。その内容は律法を暗記し、旧約聖書全体を学ぶ事でした。その事によって、

『ああ、預言者達の、この言葉はイエス様の事を言っていたのだな』

と沢山の事に気づきました。聖霊についても気づきました。イザヤ書59章20節、21節には、

『主は贖う者として、シオンに来られる。ヤコブのうちの罪を悔いる者のもとに来ると主は言われる。』

『これは、わたしが彼らと結ぶ契約であると主は言われる。』

『あなたの上にあるわたしの霊、あなたの口に置いたわたしの言葉はあなたの口からも、あなたの子孫の口からも、あなたの子孫の子孫の口からも、今も、そしてとこしえに離れることはない』

と主は言われる」

と記されています。

エゼキエル書の36章26節には、

「わたしはお前たちに、新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。わたしはお前たちの体から石の心を取り除き、肉の心を与える」

とあり、ヨエル書3章1節には、

「その後、わたしは全ての人にわが霊を注ぐ、あなたたちの息子や娘は預言し、

老人は夢を見、若者は幻を見る」

とあります。他にも沢山の御言葉が、一人ひとりの心に湧き上がり、互いに御言葉を語りあい、神様を誉め讃えたに違いありません。聖霊が来られることは、預言者達も既に預言している事です。弟子たちは

『約束の聖霊よ来て下さい』

と熱心に祈りました。

一人ひとりの心は、神様を更に慕い、神様に更に従って行きたいとの心で一致していきました。その日は、使徒言行録2章1節に記されている五旬祭の日でした。ギリシャ語では、50番目と言う意味で、イエス様が十字架に架かれた過越祭から50日目、小麦の収穫を感謝すると共に、シナイ山での律法授与を記念する祭りの日でした。

ところで、イスラエル人は、何代にも渡って、大勢の人々が地中海世界に移り住んでいました。しかし、彼らの選民意識は強く、重要な祭りには、多くのディアスポラ(離散民)がエルサレム巡礼となって、本国へ帰って来るのでした。ペンテコステは、気候も良く、旅をし易いところから、1年で一番巡礼者が多かったと言われていました。エルサレムは、人で溢れていました。その様な中、イエス様の弟子たちは、この日も朝早くから一つ所に集まって、心を合わせて祈っていました。

そこへ、2節によりますと。

「突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた」

とあります。霊は風とも訳されます。

旧約聖書に於いて、風は神様の臨在を表しました。弟子達には、神的出来事が起こる事が予測出来ました。

すると3節に、

「炎の様な舌が分かれ分かれに現れ、1人1人の上にとどまった」

とあります。炎、火は、神様の力の象徴です。

また、イザヤ書6章7節に、

「彼はわたしの口に火を触れさせて言った。

『見よ、これがあなたの唇に触れたので、あなたの咎は取り去られ、罪は赦された』

とあります様に、火や炎は、口から出てくる思いと言葉の清めを意味しています。炎の様な舌が一人ひとりの上に止まると、どうなったでしょうか。4節を見ますと、

「すると、一同は、聖霊に満たされ、霊が語るままに、他の国々の言葉で話しました」とあります。何を語りだしたのでしょうか。11節にある通り、神の偉大な業、つまり、イエス様についてです。

これは正しく、約束の聖霊が弟子達の群れに降って来られたことの証明でした。聖霊は天地創造の初めから、父なる神、子なる神、聖霊なる神の三位一体で、全ての事に関わってこられました。聖霊は旧約聖書の時代、天から人を動かして、神様の業を成させる力を注がれました。しかし、聖霊降臨によって、文字通り地上に降って来られ、信じる者の心の中に住んで下さり、人格的に接して下さる様になったのです。

イエス様は、聖霊の人格性について、ヨハネ福音書の16節7節、8節で、

「実を言うと、わたしが去って行くのは、あなたがたの為になる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところへ来ないからである。私が行けば、弁護者をあなたがたのところへ送る。その方が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする」

と言っておられます。ここで弁護者とは聖霊のことです。

弁護者とは、私の全てを知って、味方し、執り成しをしてくれる存在です。罪について、義について、裁きについて、この3つこそ、人間が自分の存在が保証されるかどうかを決する、最も知るべき事です。人生はこの事を知るためにあるのです。イエス様の十字架の贖いによる福音は、そこにあります。イエス様が人類への救いの道を開いて下さいました。神様は救いを整えて下さいました。今度は、この救いが全世界へと宣べ伝えられて行かなければならない時代、福音宣教の時代が来たのです。しかし、この世界はなおサタンが闊歩し、罪と悪が蔓延し

ています。人間の力で切り拓いて行ける世界ではありません。聖霊に助けられて、聖霊に導かれなければ成し遂げる事の出来ない努めです。

聖霊は、キリスト者を清め、福音を語る知恵と言葉、語り出す勇氣、そしてどの様な状況にも押しつぶされることなく、キリストに依る希望を持ち続けることが出来るように、信じる者の心に内住し、助け慰め、励まして下さる人格的なお方です。そして、もう一つ大切なことは、一同が一つになって集まっているところに、炎の様な舌が現れたとありますが、詳訳聖書に依りますと、

「火に似た、舌の様なものが、彼らに現れた。そしてそれは、分かれて広がって、1人ひとりの上に止まった」

と訳されています。ここにはイエス・キリストの福音宣教の為には、

『一同が一つになっていた、共同体が必要である』

ということが示されています。そして、

『その共同体は、同じ聖霊に支配されていなければならない』

と言うことが表されています。その事を表すのが、教会共同体です。

神様はその日、弟子達の群れに聖霊を遣わし、教会を誕生させられたのです。教会とは、イエス様が、ご自身による救いを、全世界に宣教させるために、地上に残されたキリストの体と言われます。教会は、イエス・キリストを頭としてキリストに繋がる体です。パウロはその事を強く訴えています。体ほど多くの器官によって成り立っているものはありません。しかも、それは皆、それぞれに違っていながら、完全な調和があります。神様はイエス様の弟子達が、その様に互いに受け入れ合って、キリストの福音を宣教して行くために、人間の体を命に生かしている、血液の働きを、聖霊に託して、聖霊を地上に遣わされたのでした。

一方、天からの大音響は、周囲に響き渡りました。5節を見ますと、

「エルサレムには、天下のあらゆる国から帰ってきた、信心深いユダヤ人が住んで

いたが、この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉で、使徒たちが話しているのを聞いて、あっけにとられてしまった」

とあります。そこには弟子達が恐れることなく、堂々として、集まって来た人々に、熱心に語り掛けている姿が想像されます。その姿に集まって来た人々は驚き怪しんで、

「話しをしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか」

と言っています。ガリラヤと言うのは、エルサレムから遠く、北限に位置し、ガリラヤ訛りは、独特で、直ぐにそれと分かり、人々は田舎の徒人(ただひとなの)に、という意味で言っているのです。

8節に、人々は、

「どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか」

とっています。

ここには言葉の奇跡が起こっています。弟子達はその様に、外国の言葉を知っている筈がありませんが、聖霊は全世界への宣教を展望して、弟子達に、外国の言葉を語らせられたのでした。集まって来た人たちの生まれ故郷の地名が挙げられています。パルティア、メディア、エラムと言うのは、チグリス河より東側の国々です。メソポタミアはチグリス、ユーフラテス河の間を意味します。カパドキア、ポントス、アジア、フリギア、パンフィリアは黒海の南側小アジア地方です、エジプト、キレネに接するリビアは、地中海の南側の国々、そしてローマから来て滞在中の者、クレタ、アラビアの名が挙げられています。これらの国、地域にイスラエル人は、移り住んでおり、それが彼らにとって世界中でありました。福音はこれからその世界へと広がって行くのです。

集まって来た人たちの驚きは、

「彼らがわたしたちの言葉で、神の偉大な業を語っているのを聞こうとは」

と感歎の声を挙げています。しかし、一方では

「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ」

と言って嘲(あざけ)る人もいました。人は、神様の御業を、どの様に受け取るかが問われます。

聖霊降臨によって、時代は、聖霊による福音宣教の時代に入ったのです。聖霊はペンテコステの日以来、イエス・キリストを信じる者の内に働いて、次の一人に、福音を宣べ伝える知恵と言葉と勇気を与えて、福音宣教を助けて下さいます。その働きは、今日も変わり無く、聖霊は私達の内に入り、福音宣教へ促し、続けていて下さいます。福音宣教は、人間の力で出来るものではありません。聖霊に勇気づけられ、押し出されなければ出て行く事が出来ません。それも教会共同体としての実を結んで行かなければなりません。ペンテコステのこの日、私達はこの身を差し出し、聖霊の内住を求め、共に福音を語り出して行ける者にさせていただこうではありませんか。

お祈りを致します。

恵深い天の父なる神様

ペンテコステのこの日を感謝いたします。神様は地上に、イエス・キリストを頭とする教会を立てて下さり、福音を委ね、その導き手として聖霊をお遣わしくくださったことを感謝します。

私達は聖霊の導きと、助けなしには、イエス・キリストの御救いを正しく伝えて行くことは出来ません。ペンテコステのこの日、もう一度キリストの体の一部としての自覚と、聖霊の助けを求めて、福音宣教に踏み出す呉ナザレン教会、そして、教会員1人ひとりとして下さい。

主イエス・キリストのお名前によってお祈りを致します。

アーメン。